

戊辰戦争に敗れた会津藩は、明治2年(1869)

11月、斗南藩3万石として、

およそ今の青森県下北郡、

上北郡、三戸郡、岩手県二

戸郡の一部に再興を許され

た。旧会津藩士(斗南藩士)

たちは、見知らぬ土地でど

のように暮らし、地元の人々

は彼らとどう接していたの

か。三戸石井家の日記、「**万日記**」(青森県立図書館蔵)から紹介したい。

まず、石井家の当主久左

衛門は、斗南藩成立につい

て、「会津23万石を取り上

げ、日本一粗末な土地を選

び、その上、去年凶作の場

所を与えたのだ」と述べて

いる。その後、東京、会津、



「白虎隊供養碑」
(三戸町教育委員会提供)

旧会津藩士大竹秀蔵は、明治4年1月13日、「**忠烈古今**」(白虎隊ノ英魂)(碑文より)を
 申うため、白虎隊士17名の姓名を刻んだ供養碑
 を観福寺に建立した。日本最古の白虎隊供養碑
 である。

新潟から斗南藩士たちは陸路と海路に別れて、ぞくぞくと新領地へやってくる。

諸説あるが、斗南藩士4千

世帯の内、約2千8百世帯、

約1万7千3百人が斗南藩

領へ、三戸への移住者は旧

三戸町で約8百人といわれ

ている。

〔三戸移住の第一陣〕

斗南藩士と

三戸の人びと

相馬 英生

(県史編さん調査研究員)

三戸町立図書館

鈴江英八家(親、祖母、妹の計4人家族)が「下宿」(間借りして生活すること)のためやってきた。

「万日記」には鈴江家の

暮らしぶりに関する記述は

ない。ただ、明治3年10月、

久左衛門から老父(81歳)

を抱えていることを理由に

鈴江家の下宿替願いが出さ

れ、翌4年12月4

日、赤石村(南部

町)の「助左」の

もとへ移されるこ

とになった。

明治5年5月12

日、「斗南藩安藤

久米之進」らが、

5月3日に病死し

た祖母を葬る場所がないの

で、石井家の墓のそばに埋

葬して欲しいと頼んだ。結

局、久左衛門は祖父の墓と

の境へ安藤氏祖母の埋葬を

許している。

また、同5年6月15日、

久左衛門所有の杉が盗まれ、

犯人を捕らえてみると、

「元斗南藩高橋大五郎」だっ

た。大五郎は涙を流しながら「母や下宿先に対して申し訳ない、今後は改心して悪事は働かないから許して欲しい」と懇願するので、

佞び証文を出させ許した。

斗南藩士に対する久左衛門

の心境は何とも複雑なもの

があっただろう。「迷惑」

という言葉が「万日記」に

は散見され、実際、迷惑な

目にも遭っている。

その一方で、着たきり同

然で見知らぬ土地へ行くこ

とを余儀なくされ、貧しい

生活にあえぐ彼らを気の毒

に思う「痛み入る」、「不便」

(不憫の意味)といった文

言も見える。先述の鈴江家

の引越しには荷物を運ぶた

めの人馬を用立て、送別の

品まで贈っているのである。

「万日記」からは、貧しい

生活に耐えながら必死に生

きようとする斗南藩士の姿

や、彼らを支えた三戸の人々

との知られざる交流が垣間

見える。